

農林金融 2010年 4月号

家計のメイン化戦略の現状と課題

(渡部喜智・田口さつき)

わが国は少子・高齢化の進行に加え、人口減少の時代へ入っている。このようななか、金融機関は個人顧客層の取り込みをはかる「家計のメイン化」を強化している。これに当たり、金融機関は、ストック(金融資産残高)、フロー(入金)、フロー(出金・決済)、貸出の4取引を指標に、顧客との関係をとらえている。そして、顧客のライフステージごとにニーズの高い金融サービスの情報提供・勧誘を行い、～の各取引を増やしている。本稿では、その具体的な取組みを顧客とのコンタクト方法、利便性、コンサルティング、ポイント制という4点から整理した。また、地域金融機関での家計メイン化のための施策をマーケティング(市場戦略)という観点で考察した。

大規模農業経営体の経営と金融ニーズ

(長谷川晃生)

本稿では、大規模農業経営体への聞き取り調査結果を踏まえ、農業経営者が自ら農業生産に従事しているか否かを基準に「家族中心の経営体」と「雇成型経営体」とに分類し、資金需要と金融機関に対するニーズについて明らかにしている。

家族中心の経営体は、農業生産中心の経営を行っている。後継者の就農や親からの経営移譲が経営展開の契機となることが多く、経営規模拡大や新たな事業分野への展開の際の資金需要への対応が経営課題であると考えている。雇成型経営体は農業生産以外に農産物加工、直売所、飲食業等に取り組んでいる。金融機関との取引にあたっては、資金調達先であるとともに、販売開拓や様々な情報収集先の一つとして位置づけ、金融機関の選択の際に重視している。

農林金融 2010年 5月号

農地の有効利用と農協の役割

(内田多喜生)

農地の有効利用に関して、農協は、当初は個別経営の組織化により、1990年代以降は農地保有合理化事業を通じ、21世紀に入ると農地の受け皿組織の設立・支援等により取り組んでいる。

実際に事例をみると、農地保有合理化法人として農地の利用集積の仲介を担うケースや、利用集積の仲介に加え受け皿としての農協出資農業生産法人を組み合わせるケース、さらに、農協が農地の利用集積を行う法人の育成・支援に取り組むケースなど、様々な取組みがみられた。

農地の有効利用に農協が果たす役割は大きく、また、農協と生産者との関係を維持していく上でも重要な取組みである。世代交代等により農地の所有構造は大きな変化が予想され、農協は多様な手段を組み合わせる必要がある。

農協農業貸出伸長の今日的意義と課題

(蔦谷栄一)

農林中金の有価証券評価損の発生とあわせて、農協、農林中金の農業貸出比率が低いところに、最近の農協批判の矛先が向けられている。

農業、地域に資金還元していくことは、本来業務であると同時に、農林中金への資金集中と海外運用圧力を若干なりとも緩和することにもなる。

JAバンク中期戦略や農林中金の経営安定化計画では農業金融サービス強化が最重点に位置づけられ、JAバンク、関連会社等も総動員して、多様な資金需要へのメニューは揃えられている。

農業貸出伸長につなげていくためには、農家経営管理支援システムの確立、農業金融センターの充実、経営トップの見識とリーダーシップの発揮等の条件整備が急がれるが、併行して農協のあり方についての抜本的議論が欠かせない。

その他の研究成果

農林金融 2010年 4月号

(情勢)

- ・日本食農連携機構の紹介
(常務取締役 鈴木利徳)

はじめに

- 1 設立の経緯
- 2 活動内容
 - (1) 会費事業
 - (2) 受託事業

おわりに

農林金融 2010年 5月号

(外国事情)

- ・大旱魃下におけるオーストラリア米生産の縮小要因
(主任研究員 平澤明彦)

- 1 旱魃と米の需給
- 2 マランビジー川にみる米生産縮小の
具体的要因
 - (1) 豪州における灌漑と米産地
 - (2) 灌漑水の割当減少
 - (3) 値上がりした水を売却
- 3 水不足への対応
 - (1) 小麦・大麦等の作付
 - (2) 水の節約
 - (3) 米産業の対応
- 4 今後の展望

(情勢)

- ・生物多様性の保全で求められる民間参画
(研究員 寺林暁良)

はじめに

- 1 生物多様性と生物多様性条約
 - (1) 生物多様性条約とその目的
 - (2) COP10の議題
- 2 多元的で複雑な生物多様性の保全
- 3 生物多様性保全の民間レベルの取組み
 - (1) 国内の企業の取組み
 - (2) 農協・信金の取組み
 - (3) 各取組みの効果のまとめ

おわりに

金融市場

2010年 4月号

情勢判断

- 1 追加緩和策が講じられたが、早期のデフレ脱却は困難
~政策効果で景気の持ち直し継続中~
- 2 米の景気回復期待とFRBの政策姿勢

経済見通し

- 2009~11年度改訂経済見通し
(2次QE後の改訂)

今月の焦点

- 1 涉外改革で地域密着を深化する
須賀川信用金庫
- 2 最近の企業設備投資と設備年齢
- 3 金融危機後の欧州国債市場

連載

- 1 内部統制のいま <第12回>
- 2 経済統計の基礎知識 <第12回>

2010年 5月号

情勢判断

- 1 裾野が徐々に広がりを見せ始めた国内景気
~デフレ脱却が見通せるまで
追加金融緩和観測が続く~
- 2 FRBは低金利政策維持を改めて表明

今月の焦点

- 1 住宅ローン返済と金融資産形成
- 2 米国連邦預金保険公社の預金保険基金の動向
- 3 欧州のソブリンCDSと金融規制をめぐる動向

連載

- 1 中国経済・金融を読む <第1回>
- 2 経済統計の基礎知識 <第13回>